

平成27年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地理歴史	地理A	2	1	高等学校新地理A（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	地理資料コンプリート （帝国書院）

到達目標	現代世界の地理的な諸問題について、地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。
到達目標に向けての具体的な取組（指導上の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> 作業を通じて地球儀と地図の違いに気づかせ、目的に適した地図を用いなければならないことを考察させる。 地形については地形図の作業をおこなうことによって種々の地形の特徴を理解させ、地形図の読図に慣れさせる。 世界の諸地域について、資料集の写真などを用いて文化の違いを理解させる。その際に2年次の世界史の内容も意識し、その基礎的な学習となるようにする。 白地図の作業を数多く行うことによって、地図帳で調べたことを習慣化し、自ら調べ考察することを身につけさせる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	球面上の世界と地域構成	<ul style="list-style-type: none"> 地球表面の大陸と海洋の分布を理解する。 緯度・経度の概念と、球面上での位置関係を正しく理解する。 地球儀と地図の違いを理解し、地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係・方位を正しく理解する。 様々な世界地図の特徴と用途について理解する。 時差の計算方法と、世界の時刻のしくみを正しく理解する。 国家の領域を正しくとらえるとともに、地域区分の概念を理解する。 国家間の結合の変化や現代世界の経済機構をとらえるとともに、国連の役割を理解する。 世界の交通網に関する資料を通して、世界諸地域間の結びつきの現状と地域差を考察する。 貿易に関する資料を通して、世界諸地域間の結びつきの現状と地域差を考察する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月	結びつく現代世界		
6月	人間生活をとり巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活・文化は自然環境と社会環境の影響を受けることを理解する。 世界の諸地域の自然環境を形成する地形を、生活・文化と関連付けて考察する。 世界の諸地域の自然環境を形成する気候を、生活・文化と関連付けて考察する。 世界の諸地域の社会環境を形成する言語や宗教などを、生活・文化と関連付けて考察する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
7月			
8月			
9月	世界の諸地域の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> 中国・東南アジア・インドの人々東南アジアの人々のそれぞれの生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 中央アジア・西アジア、アフリカ、ヨーロッパのそれぞれの人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 アメリカ合衆国、ラテンアメリカのそれぞれの人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
10月			
11月			
12月			
1月	地球的課題と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口問題を、先進国と発展途上国の事例を通して追究し、解決への取り組みを考察する。 世界の食料問題を、食料供給のかたよりを通して追究し、解決への取り組みを考察する。 世界の都市・居住問題を、先進国と発展途上国の事例を通して追究し、解決への取り組みを考察する。 世界の資源・エネルギー問題を、その利用と不均衡の問題を通して追究し、解決への取り組みを考察する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
2月			
3月			

平成27年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地理歴史	世界史 B	2	2	詳説世界史（山川出版）	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）

到達目標	近現代の世界史の流れを理解させ、現代世界の特質と課題を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	近現代の世界史の大きな枠組みと流れについて関心を高める。 世界の文化の多様性と現代社会の特質を多角的に考察する。 近現代の世界史についての基本的事項を理解し、その知識を身につける。 写真、映像など諸資料を活用する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月 5月 6月 7月	産業資本主義の発展と帝国主義 アジア諸地域の近代	・19世紀の欧米の動きを知り、国民国家の再編と第2次産業革命、植民地獲得競争の過程、帝国主義の特質、現代世界への影響を考察する。 欧米の進出をうけて、近代化への対応をせまられるアジア諸地域の動向と変化を考察する。	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物 レポート・発表等
8月 9月 10月 11月 12月	2つの世界大戦の時代 第二次大戦後の世界	・帝国主義列強の覇権争いと2つの大戦を経て、ソ連、アメリカの二大超大国の冷戦に至る20世紀を振り返る。 ・現代世界の諸問題の、歴史的経緯を理解する。	
1月 2月 3月	君たちの時代へ	・市場経済の拡大に代表されるグローバル時代とその諸問題をとおして、これからの社会における課題を歴史的に考察する。	

平成27年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地理歴史	日本史B	2	2	詳説日本史改訂版（山川出版）	最新日本史図表（第一学習社）

到達目標	原始から中世に至る我が国の歴史の展開を，東アジア全体の視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への主体的取り組みを重視する。特にノート・プリント作成・課題提出など日頃の活動を通じて地域区分・時代区分などの歴史認識の方法を身につける。 ・ 通史理解を常に意識しつつ、政治・経済・社会・文化を関連させ、各時代を概観できるように工夫する。 ・ 学習内容の確実な定着を図るために、問題演習やレポート提出を定期的実施する。 ・ 視聴覚教材などを効果的に利用する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	第1章 日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧石器時代・縄文時代の社会と文化 ・ 農耕社会の成立とそれに伴う社会の変化を弥生時代中心に考察 ・ 古墳文化の成立と国家の成立過程を考察 ・ 古墳文化の渡来人との関わり 	定期考査
5月	1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権		出席状況
6月	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立		授業への取り組み
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 継体朝の成立から仏教伝播の過程及び推古朝の成立 ・ 飛鳥文化 ・ 大化改新 ・ 壬申の乱 ・ 天武朝の成立過程 ・ 白鳳文化 ・ 東アジアの変化と遣隋使 ・ 律令体制 	宿題・提出物
8月	3 平城京の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良時代の政争と社会 ・ 遣唐使 ・ 鎮護国家と国家仏教、記紀・風土記など ・ 桓武～嵯峨天皇の時代 	
9月	4 天平文化 5 平安朝廷の形成		
10月	第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 コラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 摂関政治の成立と国際社会の変化 ・ 国風文化 ・ 荘園の発達と武士の成長 ・ 源氏の成長 <p>日本列島の地域的差異</p>	
11月	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院政・保元平治の乱平氏政権 ・ 院政期の文化 ・ 治承寿永の乱、鎌倉幕府の成立 ・ 朝廷と幕府 ・ 北条氏の台頭、承久の乱、執権政治 ・ 武士の生活、武士の土地支配 	
12月	3 武士の社会		
1月	4 蒙古襲来と幕府の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蒙古襲来 ・ 蒙古襲来後の政治 ・ 幕府の衰退 ・ 鎌倉仏教 ・ 中世文学のおこり 	
2月	5 鎌倉文化		
3月	6 室町幕府の成立		

平成27年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地理歴史	世界史B	3	3	詳説世界史（山川出版社）	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）

到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解させ、世界の文化の多様性と現代世界の特質を、広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと流れについて、関心を高める。 世界の文化の多様性と現代社会の特質を多角的に考察できる。 諸資料を集め、有用な情報の収集と、社会科学的な観点からの情報選択ができる。 世界の歴史についての基本的事項を理解し、その知識を身に付ける。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月 5月 6月 7月	先史の世界 古代オリエント世界 ギリシア・ローマ世界 アジア・アメリカの古代文明 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> 先史の世界とオリエント世界の基本事項を知り、後世への影響を考察する。 古代ギリシア・ローマの歴史を学び、地中海世界の形成と後世への影響について考察する。 インド、東南アジア、中国、南北アメリカの古代文明の形成過程とその特質を考察する。 東アジア世界の政治や文化の特質について理解するとともに、内陸ユーラシア世界との密接な関係によって形成されたことを知る。 遊牧民の生活文化と軍事的特質を知り、それらが世界史に与えた影響を考察する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
8月 9月 10月 11月 12月	イスラーム世界の成立と発展 西ヨーロッパ、東ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ中世世界の変容 内陸アジア世界の展開 東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> イスラーム教の成立に関する基本的事項を身に付け、イスラーム世界の形成と発展、イスラーム文明の特徴とヨーロッパに対する影響、イラン・トルコ・モンゴル・アフリカ・インドへの拡大について、歴史的意義を考察する。 地中海文明の遺産を引き継ぎつつ、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が成立したことを知り、その特質を考察する。 中世後期のヨーロッパ世界の変容の過程を学ぶ。 16世紀から18世紀の内陸アジア世界のトルコ化とイスラーム化について考察する。 唐末の混乱を経て、その後の中国社会の変容とそれが周辺諸国にもたらした影響、およびモンゴル帝国の歴史的意義について考察する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
1月	アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> 明・清帝国の歴史を考察しつつ、周辺諸国やヨーロッパ勢力との関係を学ぶ。 ティムール朝、オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国の興亡について考察する。 	出席状況 授業への取り組み

平成27年度 指導と評価の年間計画 (大阪府立桜塚高等学校)

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地理歴史	日本史B	3	3	詳説日本史 (山川出版)	最新日本史図表 (第一学習社)

到達目標	中世から近代に至る我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への主体的な取り組みを重視する ・政治・外交・社会経済・文化を関連させ、各時代を概観できるよう工夫する ・学習内容の確実な定着をはかるため、問題演習を定期的実施する ・視聴覚教材などを効果的に利用する

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	第5章 武家社会の成長 4 戦国大名の登場	・ 応仁の乱以後の室町幕府の崩壊、下剋上の風潮の中での戦国大名の台頭を理解する	定期考査
5月	第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヨーロッパ人の来航と織田信長・豊臣秀吉の登場による中世社会から近世社会への変革 ・ 秀吉没後の江戸幕府成立の過程 	出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
6月	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家光による幕藩体制の確立、農民・町人への政策、身分制度、宗教 政策の理解 ・ 江戸前期の経済 	
7月	夏季休暇課題	・ 史蹟・博物館レポート	
8月	3元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳諧・浮世草子など上方を中心とする江戸前半の文化の特徴 ・ 幕府財政再建のための享保・寛政の改革 	
9月	2 幕府の衰退 3 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天保の改革や列強の接近、雄藩のおこり ・ 洒落本・滑稽本など江戸中心を中心とする江戸後期の文化 ・ 国学の発達と社会的影響 	
10月	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 日清・日露戦争 4 近代産業の発展 5 近代文化の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベリー来航以後の幕末の動乱 ・ 近代国家誕生の過程 ・ 日清・日露戦争と韓国併合、満州進出の過程 ・ 明治期の産業の発展 ・ 明治文化 	
11月	第10章 1. 第一次大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民文化 4. 恐慌の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大正政変～原内閣の国内・国際政策 ・ 1920年代の協調外交と政党政治の展開 ・ 都市化と大衆文化の成立 ・ 震災恐慌と金融恐慌 	
12月			
1月	二つの世界大戦とアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦と日本 ・ ワシントン体制 	
2月			
3月			

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
地理歴史	日本史演習	3年文系	2	『詳説 日本史』(山川出版社)『新編 日本史図表』(第一学習社)

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次に開講する地歴科目である「日本史B」の文系履修者が選択できる。 ・この講座では日本近現代史について学ぶ。 ・近現代の国際環境と関連付け、多面的な側面から近現代の特色を考察させる。 ・歴史的な見方を通じて現代社会への意識を高める。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を深めさせるための視聴覚教材の使用など、教材やその提示法を工夫する。 ・政治、経済、文化、社会など多面的な分野を関連付けて指導する。 ・用語の機械的暗記などを避け、オーラルヒストリーや様々な史料、現物資料などを活用した、生きた歴史の学習をめざす。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	導入	幕藩体制の動揺	学習への取り組み状況	[興味・関心] ・近現代の日本史に関心を示したか。 ・近代日本と世界の関係を理解するために、意欲的に学習に取り組めたか。 [思考・判断] ・政治、経済、社会、文化の動きを相互に関連させて時代性を理解したか。 ・欧米、アジアの情勢と関連付けて日本史の展開を理解したか。 [技能・表現] ・何に疑問を抱き、どのように調べるか、ポイントを明確にして調査などに取り組んだか。 [知識・理解] ・歴史的な事象について正確な知識を獲得し、日本近現代史を一連の流れの中で理解できたか。
5月	近代国家の成立	開国と幕末の混乱	ワークシート	
6月		明治維新と富国強兵	課題提出	
7月	近代日本とアジア	立憲国家の成立と日清戦争	問題演習	
8月		日露戦争と国際関係	定期考査	
9月		近代産業の発展	学習への取り組み状況	
10月		近代文化の発達	ワークシート	
11月	占領下の日本	第一次世界大戦と日本	課題提出	
12月	高度成長の時代	ワシントン体制	問題演習	
1月	激動する世界と日本	市民文化	定期考査	
		恐慌の時代		
		軍部の台頭		
		第2次世界大戦		
		占領と改革		
		冷戦の開始と講和		
		55年体制		
		経済復興から高度成長へ		
		経済大国への道	学習への取り組み状況	
		失われた20年	ワークシート、問題演習	
			課題提出	
			定期考査	

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
地理歴史	日本文化史	3	2	自主教材

到達目標 ※	<ul style="list-style-type: none"> 1～2学年で学習した教科・科目における基礎・基本的な知識を踏まえ、各生徒が将来の進路選択を見据えながら、自ら興味・関心を抱く歴史的課題を探究することで、現代の社会的な事象に対する客観的な認識力や判断力を身につけさせる。 日本文化に対する基本的理解と美意識・感性を育む。
到達目標に向けて の具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を深めさせるための視聴覚教材の使用など、教材やその提示法を工夫する。 政治、経済、文化、社会など多面的な分野を関連付けて指導する。 用語の機械的暗記などを避け、オーラルヒストリーや様々な史料、現物資料などを活用した、生きた歴史の学習をめざす。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント	
4月	古墳以前の文化	日本文化を理解する上で必要な基礎知識を学び、更に適切な問題とそのとらえ方について、歴史地図・資(史)料読解・演習を取り入れた授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 授業への態度 プリントなどの提出状況 出席状況 定期考査 	<p>[関心・意欲]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に参加しているか 提出物はきっちり提出しているか 継続的に努力しているか <p>[思考・判断]</p> <ul style="list-style-type: none"> 何が基本的知識であるのか考えているか 解答において間違えた際になぜ間違っただのか再度検討しているか <p>[技能・表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> 提出物の記入法が整理されているか <p>[知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本史の基礎基本事項について、確実に習得したか 	
5月	古代・中世の造形文化	<ul style="list-style-type: none"> 古墳以前の文化を考古学的に検討する。 中国史書や記紀などの史料を扱い、その中に表された文化の特徴を確認 古代・中世の造形文化を中心に、写真資料等を取り扱う 			
6月					
7月	中世～近代の仏教芸術	<ul style="list-style-type: none"> 日本史の中世～近代に大きな影響をあたえた仏教芸術について考えさせる。 古代国家形成から中世における仏教の変化について写真資料や地図・図表を使って理解を促す。更に具体的な寺院建築や仏像について写真資料を使い解説・学習。 			
8月					
9月					
10月					
11月	ジャンル別総合まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 近代明治の文化を中心に、それ以前の日本文化や外国文化との比較で学習させる。 			
12月					
1月					
2月	文化ジャンル別演習授業を実施。センター試験問題や私立大学入試問題を編集して既習内容の実践的確認・定着をはかる。				
3月					

※学習指導要領に示された教科の目標をふまえて設定すること。

別紙様式3-①の(1)に記した「学校設定科目」について、科目ごとに作成すること。